

菊川市子ども・わかもの参画宣言について

(総務部 地域支援課)

1 趣旨

令和5年4月に子ども基本法が施行され、第11条において、国や地方自治体が「子ども施策」等を策定・実施・評価する際には、「当事者である子どもの意見の反映に係る措置を講ずること」が義務付けられました。

これは、これまで「支援」や「保護」、「教育」の対象としていた「子ども・若者」を「社会形成の主体」として位置付けることが求められているということです。

今後、子どもや若者のまちづくりへの参画等について、地域・NPO・学校・企業・行政等が協働しながら推進していくことが求められることから、市全体でこれに取り組んで行く姿勢を明確にするため、「菊川市子ども・わかもの参画宣言」を発表しました。

2 「菊川市子ども・わかもの参画宣言」策定の経緯

(1) 菊川市子ども・わかもの参画協議会

令和5年6月に市民協働センターが中心となり、菊川市子ども・わかもの参画協議会を設置しました。若者当事者（高校生5人・大学生1人）を含む、市民・市民活動団体・高等学校・企業・行政関係課で宣言内容について協議を重ね、高校生や大学生など若者当事者の意見を最大限反映しながら、「菊川市子ども・わかもの参画宣言」の案をまとめました。

協議会	開催日	開始時間	内 容
第1回	6/15(木)	18:00~19:30	課題意識の共有
第2回	7/21(金)	18:00~19:30	課題整理・アンケート中間報告
第3回	8/18(金)	18:00~19:30	アンケート結果報告、宣言の内容検討
第4回	9/15(木)	18:00~19:30	宣言の内容検討、宣言の告知方法
第5回	10/19(木)	18:00~19:30	宣言の最終確認、宣言の告知方法

【運営】菊川市市民協働センター 【協力】NPO法人わかもののみち

【座長】土肥潤也氏（NPO法人わかもののみち代表、子ども家庭庁子ども家庭審議会委員）

【メンバー】若者当事者（高校生5人、大学生1人※1）、高校教員、企業、NPO、中高生保護者、行政関係部課※2 計18名

※1：小笠高校2名、常葉大学附属菊川高校2名、掛川西高校1名、静岡県立大学1名

※2：学校教育課、子ども未来部連携調整室、企画政策課、地域支援課

(2) その他、子ども・若者の意見を反映させるための取り組み

①市内中学生、高校生への意識調査アンケートの実施（Web）

6月15日～30日 1,020人から回答（市内中学、高校、ブラジル人学校）

②市内高校生ワークショップの実施

7月11日、12日 高校生計34人参加（小笠高校・常葉菊川高校）

テーマ：子ども・わかもの声を届けるには？

3 「菊川市子ども・わかもの参画宣言」の発表

菊川市子ども・わかもの参画協議会座長の土肥氏が代表を務める、NPO法人わかものまち主催「わかものまちサミット2023」のクロージングセッションにおいて、市長が別紙1のとおり「菊川市子ども・わかもの参画宣言」を発表しました。

★【わかものまちサミット2023 子ども・若者参画の生態系をつくる。】

日時：令和5年11月19日（日）10:00～17:00

会場：全体会 10:00～12:00 常葉大菊川高校講堂

分科会 13:30～15:30 菊川市役所東館「プラザきくる」

クロージングセッション 16:00～17:00 常葉大菊川高校講堂

⇒ 市長から「菊川市子ども・わかもの参画宣言」を発表

4 宣言の想いを形にする取り組み

子ども基本法の規定に基づき、国は「子ども大綱」を策定しました。また、同法には、都道府県及び市町村においても「子ども計画」を策定することが努力義務として規定されています。本市では、令和6年度中に「菊川市子ども計画」を策定する予定であり、並行して「子ども・わかもの参画宣言」の実効性を担保するため、宣言に込められた想いを形にする取り組みを推進します。

(1) 令和6年度の取り組み

令和5年11月に発表した菊川市子ども・わかもの参画宣言に込められた想いを形にするための取り組みを推進します。

また、子ども未来部子ども政策課において「菊川市子ども計画」を策定するに当たり、子ども・若者の意見聴取及び意見反映については、地域支援課が所管する協議会で担当します。

①子ども・若者参画協議会

- ・子ども・若者の意見聴取及び意見反映について、本市に必要な仕組みと支援体制について協議するため、市民や高校生、市民活動団体等で組織するや菊川市子ども計画へ反映させる。
- ・仕組みと支援体制について、令和7年度予算への反映を目指す。

②子ども・若者参画支援交付金

- ・市内において自主的な地域づくり活動にチャレンジしようとする、若者団体を支援するため、当年度申請を可能とする菊川市子ども・若者参画支援交付金を創設

する。

別紙1：菊川市こども・わかもの参画宣言

別紙2：広報菊川12月号特集記事

前文

子ども・若者は、今の社会を担うパートナーであり、社会を構成する一員です。私たちは、「全ての子ども・若者が自分らしく自らの想いを表現し参画できる社会」の実現を目指します。

菊川市では、地域・NPO・学校・企業・行政等が協働しながら、子ども・若者のまちづくりへの参画に積極的に取り組んできました。子ども・若者は、主体的に活動に取り組むこと、意見を表明すること、そして、その意見が真摯に受け止められることにより、地域への愛着、他者への信頼感、自己肯定感などを得ることができます。また、子ども・若者の参画は権利として保障されることも重要です。

以上のことから、私たちは、子ども基本法の理念に則り、子ども・若者のまちづくりへの更なる参画を目指し、協働で推進していくことを、ここに宣言します。

理念

私たちは、全ての子ども・若者が地域に支えられ、自分らしく自らの想いを表現し、その権利が保障され、まちづくりに参画できる「まち」をつくります。

指針

1 参加・参画

私たちは、全ての子ども・若者が様々なまちづくり活動へ、当たり前に参加・参画できる「まち」をつくります。

2 意見表明・意見反映

(1) 子ども・若者

私たちは、自らの想いや意見を発するとともに、意見をすぐに表明できない子ども・若者の声も一緒に届けられるように努めます。

(2) 大人

私たちは、全ての子ども・若者が、意見を表明できる機会を確保し、その意見をまちづくりへ反映するよう努めます。また、意見をすぐに表明できない子ども・若者が、安心して意見を言えるよう支援します。

3 協働

私たちは、「全ての子ども・若者が参加・参画できるまち」を実現するため、様々な人たちと協働で取り組みます。

【別紙】

注釈

この宣言は、若者当事者（高校生・大学生）を含む、市民・市民活動団体・学校・企業・行政で組織する「菊川市こども・わかもの参画協議会」で協議を重ね、若者当事者の意見を最大限反映して作成しました。

また、宣言の作成に当たり、より多くのこども・若者の意見や想いを取り入れるため、中高生への意識調査（アンケート）と、高校生を対象としたワークショップを実施しました。

* 1 「私たちは」とは

菊川市に関わる全ての人たちのことを指します。菊川市全体で「こども・若者の参画」を宣言するため、主語を「私たちは」に統一しています。

* 2 「全てのこども・若者」とは

菊川市に住む・通うなど、菊川市に関わる全てのこども・若者のことです。

* 3 「まちづくり」とは

この宣言で使われる「まちづくり」とは、地域活性化や賑わいづくりに限らず、地域・NPO・学校・企業・行政など幅広い分野で、それぞれの立場で考える社会を良くするための活動全般のことです。

* 4 「指針2 意見表明・意見反映」について

指針2は、「こども・若者」と「大人」で役割が異なるため分けて表記しています。

菊川市こども・わかもの参画宣言



菊川市は、こども・若者の想いや意見を聴いて、みんながやりたいことができるように、この宣言をつくったんだよ！

せんげん 宣言に出てくる「参加」と「参画」のちがいは何？



「参加」はすでにある活動に加わることで、「参画」はある活動の計画から加わって、積極的に取り組むことだよ。あなたが参画すると、あなたの想いや意見が尊重され、その活動の計画や決定をより良いものにしていくことができるんだよ。

へーそうなんだ！参画って大事だね。



参画についてよく分かったかな？それじゃあ宣言を読みましょう！

はじめに

こども・若者は、今の社会を一緒につくっていく仲間です。私たちは「みんなが自分らしく自分の想いを表し、参画できる社会」にすることを目指します。

菊川市では、地域、学校、NPO*、会社、市役所などの団体、みんなが協力しながら、こども・若者たちが自分からまちづくりへ参画できるように頑張って取り組んできました。こども・若者は、自分から積極的に何かを試してみたり、自分の考えを伝え、ちゃんと受け止められたりすることが、地域が好きになったり、友達や周りの人を信頼したり、自分を大事に思ったりすることに役立ちます。また、こども・若者の参画は権利として認められ、守られていくことも大切です。

このことから、私たちは、「こども基本法」*の考えをもとに、こども・若者がまちづくりへさらに参画していくことを目指し、一緒に協力して取り組んでいくことをここに宣言します。

私たちが目指すもの

私たちは、全てのこども・若者が、地域に支えられ、自分らしく自分の想いを表し、その権利が認められ、守られて、参画することができる「まち」をつくりまします。

私たちが行っていくこと

1 参加・参画

私たちは、全ての子ども・若者が、あたりまえに参加・参画できる「まち」をつくります。

2 自分の意見を表すこと・意見が受け入れられること

① 子ども・若者

私たちは、全ての子ども・若者が意見を表すことができる機会をつくり、その意見をまちづくりへ取り入れるように頑張ります。また、すぐに意見を表すことができない子ども・若者が安心して、意見を言えるように助けしていきます。

② 大人

私たちは、自分の想いや意見を表すだけでなく、自信がなかったり、意見が持てなかったり、さまざまな状況で考える余裕がなかったりするなど、すぐに意見を表すことのできない子ども・若者の声も一緒に届けられるように頑張ります。

3 一緒に協力して取り組むこと

私たちは、「全ての子ども・若者が参加・参画できるまち」にするため、さまざまな人たちと協力して一緒に取り組みます。

この宣言は、子ども・若者、市民・NPO・学校・会社・市役所の人たちが集まり「菊川市子ども・わかもの参画協議会」で何度も話し合い、子ども・若者の意見を出来る限り取り入れて作りました。また、宣言を作るうえで、より多くの子ども・若者の意見や想いを取り入れるため、中高生への意識調査(アンケート)と、高校生が参加するワークショップを行いました。

言葉の説明

「私たち」ってだれ？

菊川市に関わる全ての人のこと。菊川市全体で「子ども・若者の参画」を宣言するため、主語を「私たちは」にあわせています。

「自分の意見を表すこと 意見が受け入れられること」について

『私たちが行っていくこと 2』は、「子ども・若者」と「大人」で役割が違うため分けて書いています。

「子ども基本法」ってなに？

子ども・若者が自分らしく、幸せに成長できて、暮らせるような社会を実現するための法律です。

「まちづくり」って？

この宣言で使われる「まちづくり」とは、地域を活発にして、にぎわいづくりをすることだけではなく、地域・NPO・学校・会社・市役所など幅広い分野で、それぞれの立場で考える、社会を良くするための活動すべてのことです。

「全ての子ども・若者」ってどういうこと？

菊川市に住む・通うなど、菊川市に関わる全ての子ども・若者のことです。

「NPO」ってなに？

利益を目的としないで、社会をよりよくするために活動する団体です。



11月19日に市内で開催された「わかものまちサミット2023」で「菊川市子ども・わかもの参画宣言」を全国に先駆けて発表しました。市では、これまでも若者が地域で自分らしく活躍できるようさまざまな取り組みを行ってきましたが、宣言を発表することでさらに大きな一歩を踏み出しました。今回の特集では、わかものまちサミットの内容を振り返りながら、市の若者参画の取り組みと「菊川市子ども・わかもの参画宣言」について紹介します。

問い合わせ 地域支援課市民協働係(プラザきくる内☎35-0925)

写真:わかものまちサミット2023の様子

わかものまちサミット 菊川で開催

11月19日、「わかものまちサミット2023」が市内で開催されました。NPO法人わかものまちが主催する全国規模のイベントで、全国からわかものまちづくりに取り組む実践者や当事者である若者、自治体関係者など200人以上が参加しました。サミットの目的は、お互いの取組を学び合い、ネットワークを構築し、若者参画を広めて行くこと。2020年の名古屋市、2022年の京都市に続き、本市が3カ所目の開催地となりました。

午前中の全体会では、「若者参画の生態系をつくる」をテーマにパネルディスカッションが行われました。最初に、菊川市の取組を、菊川市市民協働センターの笠原活世センター長と菊川市子ども若者参画協議会の高校生メンバー戸塚俊作さんが発表しました。続いて、鯖江市役所JK課の高校生、大熊美郁子さんと櫻井莉乃さん、子ども家庭庁参事官の佐藤勇輔さんが、それぞれの取り組みを発表しました。

その後、静岡大学の日誌

一幸学長、一般社団法人Masterpiecesの菊池真梨香さん、NPO法人わかものまち代表の土肥潤也さんに加え、意見交換が行われました。

午後の分科会では、参加者が4つのテーマに分かれ、事例報告や意見交換を実施。各テーマのゲストによる事例報告と参加者を交えての活発な意見交換が行われました。クロージングセッションでは、各分科会で話し合われた内容を参加者同士が報告し、今後のことも若者参画のあり方についてお互いの考えを共有しました。

最後に長谷川寛彦市長と子ども若者参画協議会のメンバーが「菊川市子ども・わかもの参画宣言」を読み上げ、サミットは幕を閉じました。

全国的な課題となっている 若者の社会参画

今年4月に子ども基本法が施行され、子ども政策を中心に担う子ども家庭庁が創設されました。子ども基本法には、日本ではじめて子どもの意見反映の義務規定が設けられ、子どもの参画や意見反映の重要性が増しています。

これまで支援や保護、教育

菊川市のこれまでの取り組み

中学生の「ふるさと志向力」を育む



■ 中学生ふるさと未来塾

「自分の住む地域に愛着を持ち、地域の中で自己実現を目指す能力」を「ふるさと志向力」と定義し、地元の企業や団体が中学生向けに企業説明会を行う「ふるさと志向力を育むキャリアセミナー」を開催しています。

高校生が創る菊川市の未来

■ 高校生ふるさとセミナー

小笠高校と常葉大学附属菊川高校と連携協定を締結し「高校生ふるさとセミナー事業」を開催しています。高校生が主体となって市の人口減少問題について考え、市に対して解決策の提案を行っています。



プラザきくるでつながる・広がる



■ プラザきくるがオープン

令和2年にプラザきくるが開館すると、高校生が多く集まる場所となりました。そこから、きくるを拠点として、2つの高校が協働し、まちづくりの賑い創出事業が行われています。また、若者だけでなく大人や子どもも関わる活動が広がりを見せています。

若者が主体的にまちづくりに参画

■ きくがわ高校生まちづくりスクール

高校生の企画やアイデアをまちづくりに活かし、高校生が主体的にまちづくりに参加する機会として開催。ワークショップを通じてアイデアを課題解決のプロジェクトにしなが、高校生自らが実践していきます。また、まちづくりスクールを卒業した高校生がその後も活動を継続したり、新たな企画を実践したりするなど、広がりを見せています。



若者の参画を推進してきた菊川市

の対象としていたことも、若者を「社会形成の主体」として位置付けることが、社会全体として求められています。

市では、平成27年に策定した「菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で「郷土愛を育むまち」を基本施策の一つに掲げ、若者が地域の良さを認識し、地域づくりに主体的に参加する機会作りに取り組みできました。中学生向けの企業説明会や市内2つの高校との協定締結、若者がまちづくりに参画しやすい仕組み作りなどの取り組みが評価され、今回のサミット開催にもつながっています。今後さらに、地域・NPO・学校・企業・行政など多様な主体が協働し、全てのことも、若者が自分らしく自らの思いを表現し参画する社会を、市全体で目指していくことを明確にしたものが、「菊川市こども・わかもの参画宣言」です。

菊川市こども・わかもの参画宣言

「全てのこども・若者が自分らしく自らの思いを表現し参画できる社会」を目指し策定された「菊川市こども・わかもの参画宣言」。ここでは、宣言の概要と策定に関わった若者たちの宣言に込めた想いを紹介します。

菊川市こども・わかもの参画宣言

■ 理念 ■

私たちは、全てのこども・若者が地域に支えられ、自分らしく自らの思いを表現し、その権利が保障され、まちづくりに参画できる「まち」をつくりまします。

■ 指針 ■

1 参加・参画

私たちは、全てのこども・若者が様々なまちづくり活動へ当たり前に参加・参画できる「まち」をつくりまします。

2 意見表明・意見反映

(1) こども・若者

私たちは、自らの思いや意見を発するとともに、意見をすぐに表明できないこども・若者の声も一緒に届けられるように努めます。

(2) 大人

私たちは、全てのこども・若者が、意見を表明できる機会を確保し、その意見をまちづくりへ反映するよう努めます。また、意見をすぐに表明できないこども・若者が、安心して意見を言えるよう支援します。

3 協働

私たちは、「全てのこども・若者が参加・参画できるまち」を実現するため、様々な人たちと協働で取り組みまします。

言葉の説明

● 私たちって誰のこと？

菊川市に関わる全ての人たちのことです。菊川市全体で「こども・若者の参画」を宣言するため、主語を「私たちは」にあわせています。

● 「まちづくり」ってどんなこと？

この宣言で使われる「まちづくり」とは、地域を活発にして、にぎわいづくりをすることだけではなく、地域・NPO・学校・会社・市役所など、幅広い分野でそれぞれ考える、社会をよくするための活動全てのことです。

● 「自分の意見を表すこと意見が受け入れられること」について

指針の2は、「こども・若者」と「大人」で役割が違うため分けて書いています。

● 「全てのこども・若者」ってどういうこと？

菊川市に住む・通うなど、菊川市に関わる全てのこども・若者のことです。

全ての世代が同じ目線で話し合えるようになったら



カトウズプール
紗奈

(常葉大学附属
菊川高校2年生)

言葉1つでも解釈が違うので、みんなが同じ方向を向けるように言葉を選びました。大人の中でも世代によって、意見を分けることが多いと思います。宣言を通して、全ての世代が同じ目線で話し合えるように伝えていきたいです。菊川市がきっかけになって日本全体でもそうなるといいと思います。

こどもの意見も大人の意見も同じように受け取って



成島 千尋

(常葉大学附属
菊川高校2年生)

指針の部分は意味が伝わるように言葉を選びました。こどもだから、大人だからではなく、こどもの意見も大人の意見も、同じ意見として取り扱って平等に受け取ってほしいです。まちづくり活動に自分から参加するのは難しいかもしれませんが、宣言を読んで積極的に動けば、大人も受け止めてくれるということ伝えていきたいです。

菊川市から全国に宣言の理念が広まってほしい



戸塚 俊作

(掛川西高校
3年生)

宣言はこどもと大人、それぞれに対するメッセージが込められています。そのメッセージが小学生でも理解できるように、若者当事者のメンバーでこども・若者版も作成しました。宣言を通して、こどもにも意見を表明する権利があることを知ってもらい、大人の協力のもと、こども・若者が意見を表明する機会が少しでも増えたら嬉しいです。

NPO法人わかもののみち

代表理事 土肥 潤也さんのメッセージ



まず、菊川市が「こども・わかもの参画宣言」を発表したことを喜ばしく思います。この4月にこども家庭庁が開庁し、こども・若者の意見反映や参画への取り組みが全国的に加速しています。そんな中、菊川は先駆けて今回の宣言をしました。これは全国の自治体のモデルとなる取り組みと言っても過言ではありません。しかし、重要なのはこれからです。宣言がただのスローガンとならぬように、たくさんの実践が生まれていくことが重要です。菊川市役所がその先導をしながら、地域全体でこども・若者が参画するまちづくりに取り組んでいくことを期待しています。きっと成果が出てくるのは、5年後、10年後という長いスパンです。「あの宣言が大きなスタートラインだったよね」と、未来に良い振り返りができるようにひとりひとりが参画していきましょう。



▲わかもののみちサミットの後、メンバーと事務局で記念撮影

大人と議論することには、はじめは不安だったとメンバーは口をそろえます。ですが、回数を重ねていくうちに、若者の立場になつて考えてくれる大人たちが大勢いることを実感。お互いに意見を出し合っている、議論を深めていきます。「私たちはもちろん、大人も宣言のことをわからない状態でスタートします

大人とこどもがお互いを尊重し、意見を出し合うことで、完成した宣言。市ではこの宣言を新たなスタートラインとして、若者たちの想いを形にする取り組みをさらに進めていきます。

みんなで作り上げた宣言
宣言文の策定にあたっては、今年6月に市民協働センターが中心となり、高校生・大学生を含む若者当事者6人と、市民活動団体・高校教員・企業・行政関係課で「菊川市こども・わかもの参画協議会」を組織し、その内容について協議を重ねてきました。全5回の会議の他、若者版の宣言を作成するため、放課後や休日に集まって打ち合わせをするなど、積極的に活動を行ってきました。また、市内中学生、高校生への意識アンケートや、市内高校生によるワークショップを実施するなど、若者当事者の意見を、できる限り反映しています。

大人と若者、互いに尊重

ねてきました。そこら伝えやすい、伝わりやすい表現を探して、議論を深めていきました。「議論が白熱して、意見がすれ違うこともありましたが、そのおかげでいいものになりました」と、みんなで真剣に策定に取り組んだことを話します。そして、「子どもだけ、大人だけでなく、一緒に肩を組んで考えていけたのが良かった」と振り返り、宣言の策定をおして、まちづくりに参画することを実感していました。

ここからが本当の始まり

宣言を知ることで、まちづくり活動にも興味を持って

自分が活動することで、宣言の理念を広めていきたい



磯崎 心叶

(静岡県立大学 1年生)

宣言の柱となる指針を考えるのが大変でした。菊川市だけでなく近隣市や静岡県、全国で若者の参画が活発に行われるようになったらいいなという思いを込めた宣言です。若者の参加するまちづくりが進んでいる菊川市から宣言と共に、若者がまちづくりに関わる考え方が全国に広まっていくことを期待しています。



平野 丈

(小笠高校 2年生)

自分は中学校の頃、自分の意見を周囲に伝えられなくてつらい思いをしました。宣言には意見を伝えるための考え方が入っています。自分と同じような思いをしている子どもたちに宣言が届いてほしいです。宣言を知ることでまちづくり活動にも興味を持ってもらえると思うので、宣言のことを知ってもらって活動をしたいです。

こどもからも意見を言いたいことを知って欲しい



増田 晴夏

(小笠高校 2年生)

どんな活動でも、こども同士・大人同士で行うことが多いのですが、こどもと大人が協力することが当たり前になれば良いと思います。身近な友だちでも意見を言いたいけど言えない、活動があっても行けない人もいます。宣言を作った一人として、そういう当事者にもこどもからも意見を言いたいことを知ってほしいと思います。